

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 2 日現在

機関番号：14501  
研究種目：基盤研究(C) (一般)  
研究期間：2014～2016  
課題番号：26380167  
研究課題名(和文) 日本とドイツにおける福祉国家再編の比較研究

研究課題名(英文) Welfare Realignment in Japan and Germany

## 研究代表者

近藤 正基 (Kondo, Masaki)

神戸大学・国際文化学研究所・准教授

研究者番号：80511998

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：戦後史の流れの中で、日本とドイツの福祉国家はどのように分岐していったのか。そしてその背景にはどのような要因があったのか。このテーマに関して、ドイツ語論文を三本執筆し(小泉・シュレーダー政権による福祉国家政策とその政治の比較、メルケル政権の福祉国家政策と同時期の日本の福祉国家政策の比較、日本とドイツの左派陣営のイデオロギーや凝集性の比較)、保守政党の日独比較と労働組合の日独比較について国際シンポジウムにて二度の発表を行った。本研究テーマにかかわる共同研究にも参加しており、憲法改正、排外主義運動、連邦制改革について、日本との比較の中でドイツ政治を捉え直す作業を進め、図書出版することができた。

研究成果の概要(英文)：As part of the results of researches, I wrote three articles in German about welfare realignment and politics in Germany and Japan. And also gave a lectures at an international symposium about the comparison politics of Japan and Germany. Furthermore, I published one compilation book about politics after the reunification in Germany.

研究分野：政治学

キーワード：福祉国家 福祉政治 社会政策 労使関係 政党政治 経路依存性 権力資源動員論 言説政治

### 1. 研究開始当初の背景

これまで、政治学において、日本とドイツはしばしば比較の対象にされてきた。当初はファシズム論の観点から研究されることが多かったが、その後、様々な比較研究が登場した。代表的な研究としては、望田幸男による「戦後の近代化論」、姫岡とし子による「比較ジェンダー史」、セーレン&久米郁男による「労使関係論」、大嶽秀夫による「比較保守政党研究」が挙げられよう。

このように日独比較が注目を集めるものの、比較福祉国家論においては本格的な日独比較研究は現れなかった。日本とドイツの双方を扱っているのはもっぱら多国間比較研究だった。そこでは、両国の福祉国家・福祉政治については、共通点と相違点の両方が強調されてきた経緯がある。エスピン＝アンデルセンは、ドイツを「保守主義型福祉国家」とし、日本を「保守主義型福祉国家」と「自由主義型福祉国家」のハイブリッドとしており、一定の共通性が認められるとしている。その一方で、新川敏光は日本を「家族主義型福祉国家」としてドイツと峻別しており、宮本太郎なども日本を「東アジア型福祉国家」と性格づけて、独自の類型として捉えている。共通点としては、社会保険中心の構造、男性稼ぎ手家族の優遇、保守政党優位の福祉政治が挙げられてきた。相違点としては、企業福祉の比重、公共事業の位置づけ、社会団体の役割、社会支出の対GDP比の違い、労働組合の政治的影響力が指摘されてきた。

こうした論点が提起されてきたものの、日本とドイツの福祉国家を正面から扱い、比較検討した研究はいまだに登場していない。昨今、各国の福祉国家がどのように再編されていくのかという論点が注目を集めており、自由主義型福祉国家化という共通した趨勢が指摘されるようになってきている。この意味で、(アメリカのような)市場主導の福祉国家とは異なる日独福祉国家がどのような再編過程をたどるのかは、「福祉資本主義の世界」の将来を見定めるためには欠かせないポイントである。

戦後史の流れの中で、ドイツと日本と福祉国家が分岐したのはなぜか。その分岐はどのように形で現れており、どのような要因によってもたらされたのだろうか。戦後ドイツの日本における福祉国家および福祉政治の比較研究はいまだに存在しない。本研究において、研究を進め、日本語・ドイツ

語の図書・論文でもって発信していく。

### 2. 研究の目的

本研究では、日本とドイツにおける福祉国家の再編を比較検討する。福祉国家の再編期(1990年代以降)において、日独福祉国家の間にどのような制度的な違いが生まれているのかを明らかにし、そのような違いを生み出した政治的要因を解明する。

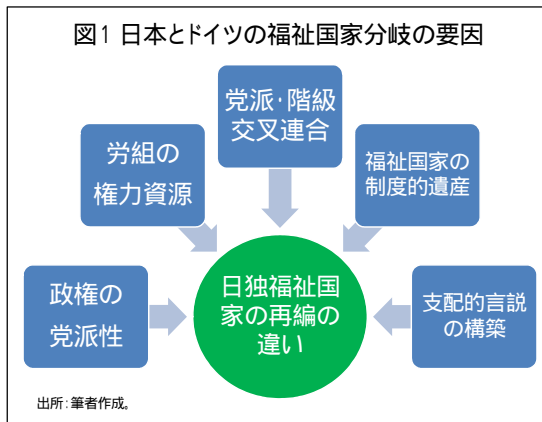
まずは、福祉拡充期(1940年代末～70年代半ば)と縮減期(1970年代半ば～90年代)を分析し、両国の福祉国家の「制度的遺産」を検討する。その後、再編期(90年代～現在)の考察に入る。比較福祉国家論の知見を活用し、福祉国家の類型論に依拠しながら、日独の福祉再編改革の性格付けを行う。そして、福祉政治論を利用しながら、福祉国家再編の政治力学を分析する。その際、政権の党派性、労組の権力資源動員、党派・階級の交叉連合、制度的遺産、言説政治に着目して分析を進める。

### 3. 研究の方法

福祉国家類型論の新たな発展を踏まえて、類型論にそってドイツと日本の福祉国家の特性をとらえる。その上で、言説政治、権力資源、政党政治、制度的経路依存性の観点から、日独福祉国家の経路をわけた政治的要因について分析を行う。

想定される因果関係は図1のとおりである。政権の党派性については、再分配にどのような態度をとるのか(市場重視 再配分)という軸と、どのような家族像を想定しているのか(脱家族化 伝統的家族)という軸でもって判断する。労組の権力資源は組織率や集中度・独占度でもって測定される。党派・階級交叉連合では、政治勢力間の提携関係が検討される。福祉国家の制度的遺産においては、どのような福祉国家、さらに具体的に言えばどのような福祉プログラムが提供されてきたのかが問われる。そして、支配的言説については、各政治勢力がどのようなコミュニケーション的・調整的言説でもってじしんの力を高めたのかが検討されることになる。

エスピン＝アンデルセン、ボイッシュ、スウェンソン、ピアソン、シュミットといった福祉国家理論研究者が重視するポイントに視点を置き、これを比較の視座として、日本とドイツを分析する。



#### 4. 研究成果

福祉国家の発展・変容・再編にかんする日独比較について、ドイツ語論文を3本執筆した(メルケル政権と同時期の日本の福祉国家政策の比較、小泉・シュレーダー政権の福祉政治の比較、戦後を通じた左派政党・労働組合のイデオロギーや凝集性の比較)。これらの分析を通じて、権力資源動員や政権の党派性がドイツと日本の福祉国家の分岐をわけたと考えられるが、さらに重要なのは、労組、左派政党、保守政党という主要プレイヤーが日独で政策選好が違っているということである。ドイツ福祉国家については雑誌論文・共著をあわせて2本執筆した。主にメルケル政権について分析しているが、コール政権からの流れも踏まえた比較的長期にわたる比較分析である。ドイツ政治については編著1冊を仕上げた。1990年の統一から20年強の長期にわたって、政党、労使関係、対EU関係といった政治力学と、福祉、外交、移民、脱原発などの多様な政策がどのように変化してきたのかをまとめた一冊である。この著書に関連して名古屋大学や東京大学DESKで報告を行った。また、日独比較政治に関して、国際シンポジウムにおいて2回の報告を行った(保守政党の比較、労働者代表制の比較)。また、日本とドイツにおいて、チューリヒ大学、ゲルリッツ・ツィッタウ大学、ケルン大学の教員等と共同で、日独比較政治の国際シンポジウムを4回開催した(外交政策の比較、排外主義運動の比較、脱原発運動の比較、保守思想の比較)。毎回、ドイツと日本の学生・院生・研究者が参加し、活発な議論が行われた。また、こうしたシンポジウムは、視野を広げて日独の違いと共通点を捉える機会となり、本研究の日独比較研究にも多くをもちたらしたと考

える。ドイツ政治に限って言えば、そのほか、憲法改正、連邦制、福祉政策などについて論文を執筆し、共著を出版した。これらは共同研究であり、ドイツのみを担当することがつねであったが、共同研究全体としては日本を含めた広範な研究であったため、本研究の比較分析にとって有益であったと考えている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

Masaki, Kondo, Sozialpolitische Entscheidungen in Deutschland und Japan--Die Sozialstaatsreformen der Regierungen Schroeder und Koizumi, Journal of Intercultural Studies No.43, pp.1-20, 2015.

Masaki, Kondo, Sozialpolitik im Wandel--Die Sozialpolitischen Reformen unter der zweiten Regierung Merkel, Journal of Intercultural Studies No.44, pp.95-112, 2015(mit Megumi Kondo-Arita).

近藤正基「メルケル政権下でのドイツ福祉国家の変容」『ドイツ研究』第50号、109-118頁、2016年。

Masaki, Kondo, Arbeitnehmerparteien und Gewerkschaften in Japan: Historische Analyse im Vergleich zu Deutschland, Journal of Intercultural Studies No.48 (2017年掲載決定済)。

[学会発表](計7件)

近藤正基「統一後25年のドイツ政治」ドイツ・ヨーロッパ研究センターセミナー、於東京大学、2015年。

近藤正基「メルケル政権の福祉政策と政治」日本ドイツ学会、於東京大学、2015年。

近藤正基「ドイツ政党制のなかの「ドイツのための選択肢」」日本比較政治学会、於上智大学、2015年。

近藤正基「現代ドイツ政治 統一後の20年」中部政治学会、於名古屋大学、2015年。

Masaki, Kondo, "LDP und CDU/CSU im

Vergleich", Lecture: Major Parties Influence on the Process of Political Opinion Making in Germany and Japan, an der Kobe University, 2015.

近藤正基「ドイツにおける憲法改正の政治過程」、慶應義塾大学法学部主催シンポジウム「憲法改正の比較政治学」、於慶應義塾大学、2016年。

Masaki, \_\_\_\_\_ Kondo, "Kultursoziologische Aspekte der Arbeitnehmervertretung in Japan und Europa", Symposium "Kultursoziologische Unterschiede in der Unternehmensführung am Beispiel Japan versus deutschsprachige Länder Europas" am Integrated Research Center of Kobe University, 2016.

〔図書〕(計6件)

西田慎・近藤正基編『現代ドイツ政治 - 統一後の20年』ミネルヴァ書房、336頁、2014年。

近藤正基「保守主義レジームから変化するドイツ」新川敏光編『福祉レジーム』(シリーズ・福祉+)ミネルヴァ書房、59-70頁、2015年。

近藤正基「集権化する連邦制? - ドイツにおける第一次連邦制改革の効果と政治的要因」秋月謙吾・南京兌編『地方分権の国際比較』慈学社、152 - 173頁、2016年。

近藤正基「ドイツにおける憲法改正の政治」駒村圭吾・待鳥聡史編『憲法改正の比較政治学』弘文堂、237 - 268頁、2016年。

近藤正基「コール政権と改革の停滞」「シュレーダー政権と政策の刷新」「ハルツ改革」「メルケル政権」森井裕一編『ドイツの歴史を知るための50章』明石書店、345-365頁、2016年。

近藤正基「排外主義政党の誕生」「ドイツのための選択肢」の発展と変容」新川敏光編『国民再統合の政治』ナカニシヤ出版、近刊。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

近藤 正基 (KONDO MASAKI)  
神戸大学・国際文化学研究所・准教授  
研究者番号：80511998

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

##### (4) 研究協力者

( )